

# toshiの はみだしアート

toshi



「toshiのはみだしアート展」が開かれています。  
夏の「とっとり花回廊」北館ギャラリーです。  
シンプルな曲線と直線を使った鮮やかな色彩の絵です。  
描かれているのは、人の顔や体、ふしぎな幾何学模様。  
ユーモラスな顔もあれば、少し不気味な顔もあります。  
「色使いがおもしろい」。そんな感想が聞かれました。

その好感触に喜んでいたtoshiさんでしたが、  
年が明けると、「ぼくはもう絵が描けん」、  
母親のひろ子さんにそう告げました。  
毎年夏に恒例となっていたこの個展は、  
次に開けば5回目でしたが、中断しました。

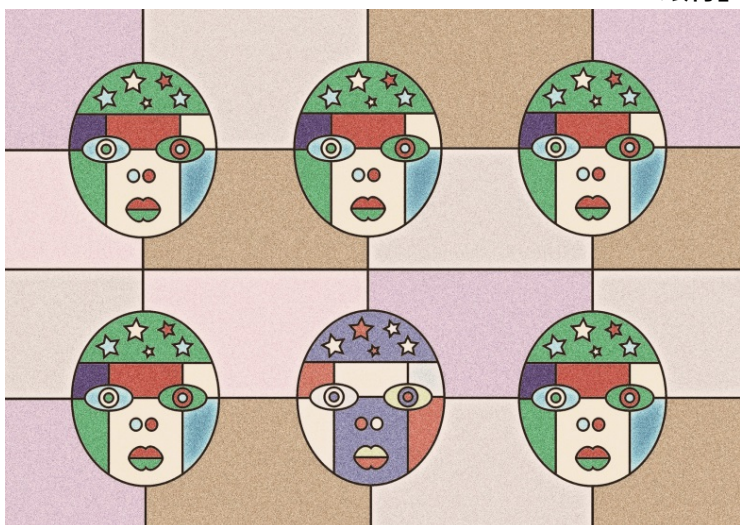




toshiさんは中学生の時に不登校になりました。  
両親は思春期の一過性のものと思っていました。  
いろんな病院で診てもらいましたが、  
体調は、なかなか良くなりませんでした。

17歳の夏、急に悪化します。  
統合失調症と診断を受けて、  
4カ月間、入院することになりました。  
退院しても、睡眠は安定せず、  
幻視や幻聴が、toshiさんを悩ませました。

「KODOMO銀行」



「かぼちゃはいらんかえ」



一時的に体調が良く、活動的だった時期もありました。

自転車に乗って歯医者に出掛けたこともあります。

ですが、長くは続きませんでした。

30歳の時には摂食障がいにかかりました。

食べられなくて、170㌔の体は体重が40㌔台にまで落ち、

持ちこたえて回復に向かうと、今度は、過食になる。

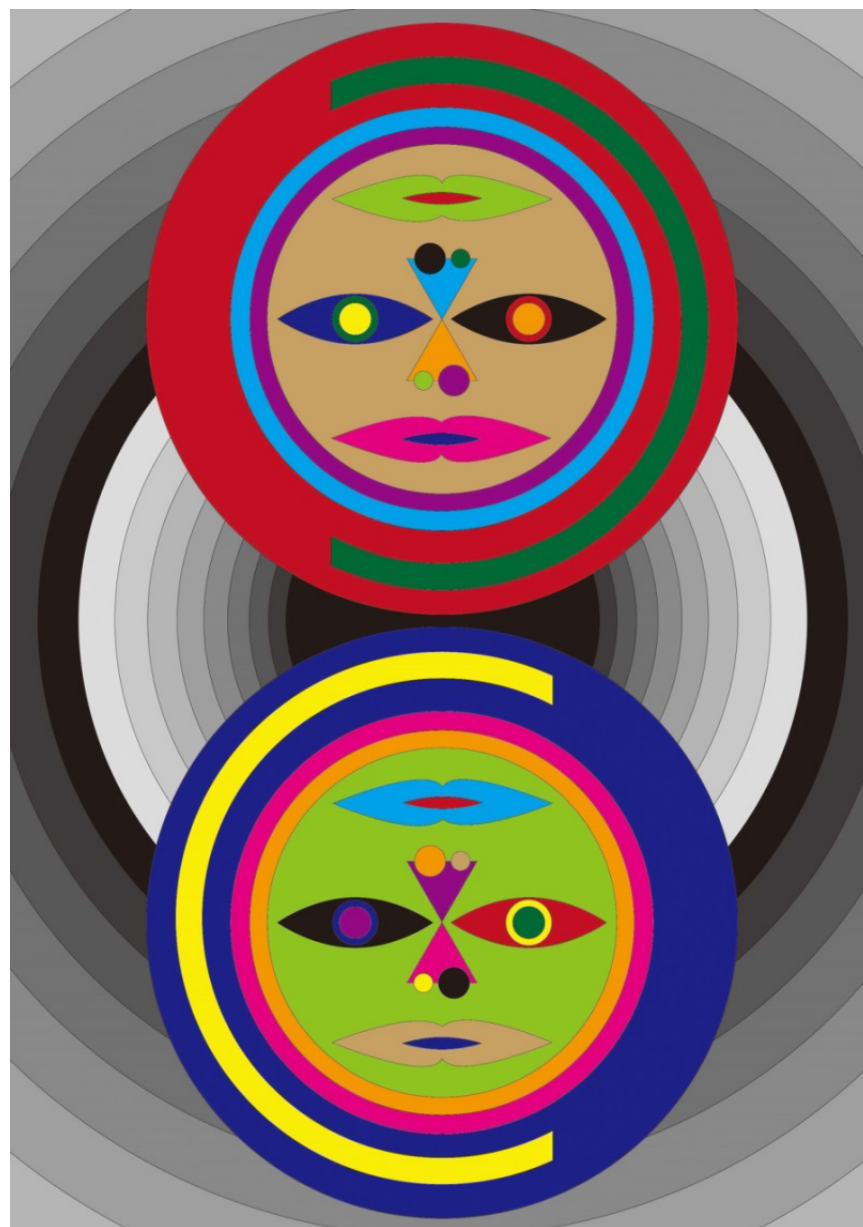
1日半寝ずに過ごし、40時間続けて眠ることも。

浮き沈みの激しい生活を繰り返しました。

「ある森のお昼時」



「アボガドの精霊」

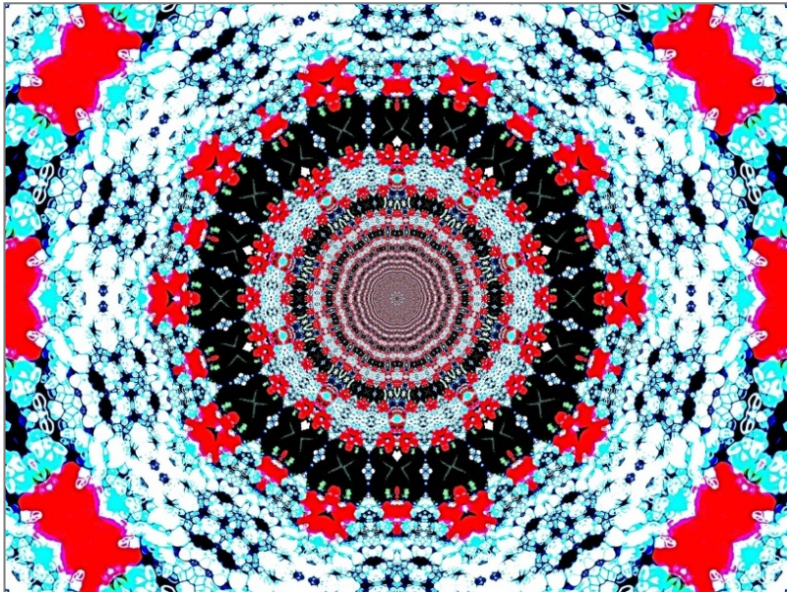




そんな中でも、toshiさんが心を向けたのが絵でした。  
もともと絵は好きでした。中学生のころ、  
美術の教科書に載っていたピカソの絵に衝撃を受けました。

パソコンで絵を描き始めました。試行錯誤でしたが、  
すぐに明確な線と形が描けるようになりました。  
toshiさんは、部屋で一人制作に没頭しました。  
ひろ子さんが作品をとじるファイルを用意すると、  
すぐにいっぱいになりました。

「雪の女王」



「海草の男」



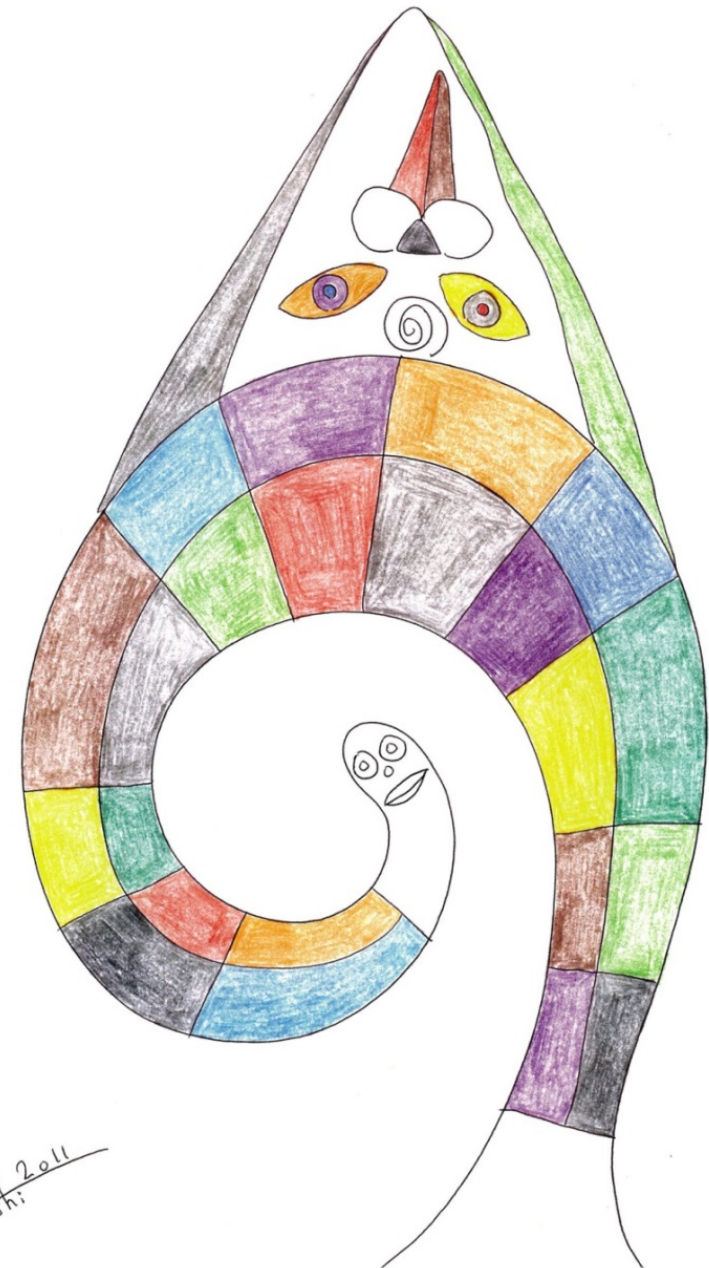
「太陽の再来」「脳天ピカソ」「ダビデの小判」一。

toshiさんのタイトルは、作品同様にとってもユニークです。  
作品は、色鉛筆やボールペンを使って描くこともあります。

アウトサイダー・アートという言葉があります。  
既成の美術の枠にはまらない独創的な美術作品をいいます。

「はみだしアート」、そんなふうには、  
感覚的に分かりやすいかもしれません。  
toshiさんの作品も、そうしたアートの仲間として、  
たくさんの人の目にとまることとなります。

「ネコネコギャング」



「人魚」



「光と闇」





ひろ子さんは「社会とつながる接点になれば」と、  
作品が展示できる場所を探していました。

2009年、その機会が訪れます。

松江市内で開かれた「アウトサイダー・アート展」です。  
若者を支援しているNPO法人が企画した展示でした。

翌年には、米子市内で個展を次々と開くことになります。  
その年に始まったとっとり花回廊での個展は4回続きました。  
13年には、鳥取県美術展のデザインの部で初入選します。  
インターネット上でも作品やアートを共通の話題に、  
さまざまな友だちの輪が広がりました。



今のtoshiさんは、睡眠のサイクルも落ち着き、体調は安定しています。

ひろ子さんは「お互いに病気の話もできるようになった」と言います。

「toshiの作品は目と顔が主体でいろんな表情があって好き」

「ずっと集中して描いていたので、少し休ませてあげたい」とも。

toshiさんは40歳になります。

実は、ここ8年間、家からほとんど出ていません。

作品の展示は、周りの人たちが手伝ってくれました。

踏み出せない一歩を心の内に抱えながら、

toshiさんは自分の病気を受け入れ、向き合っています。

家の庭で、家族一緒に花を見たり、

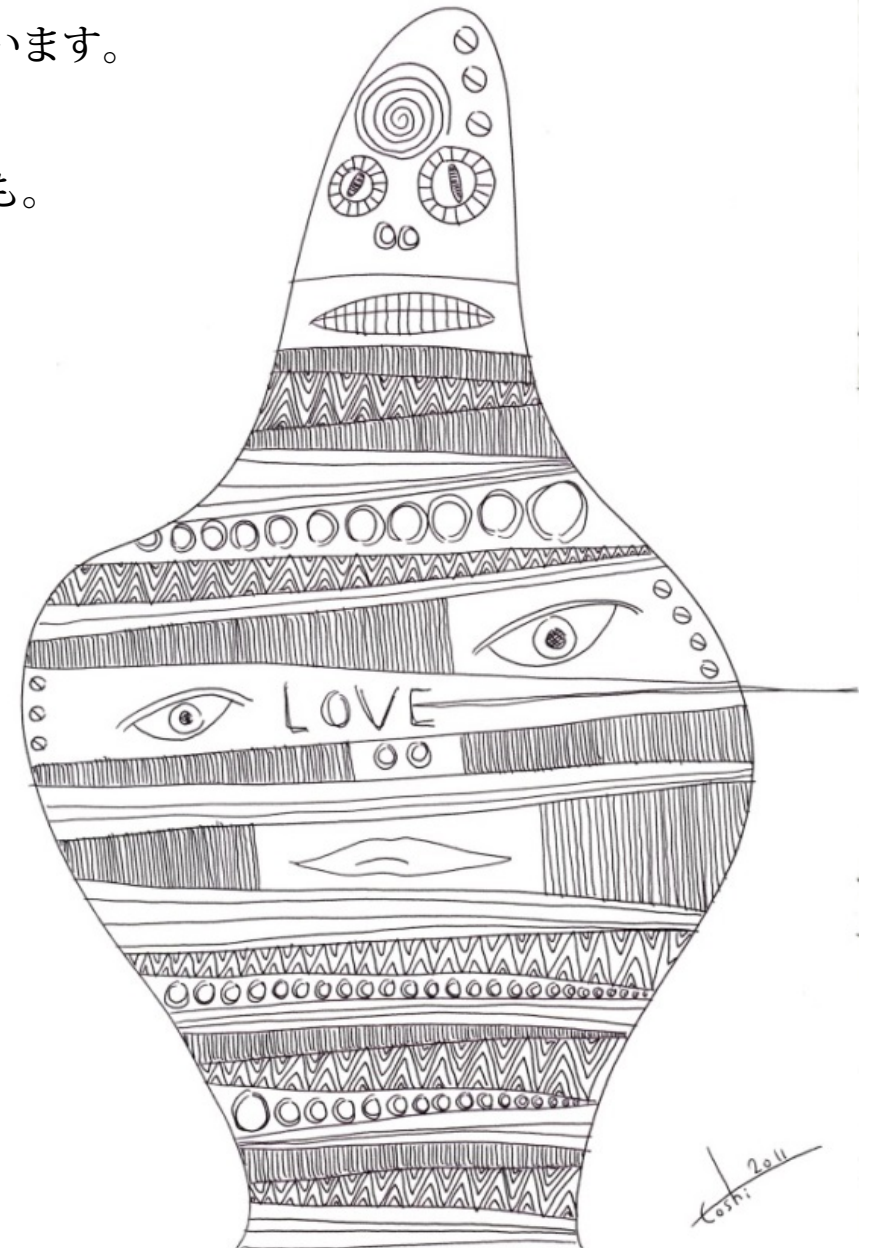
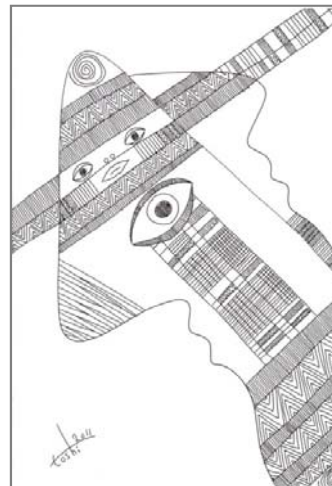
家族に誕生日カードを贈ったり。

それは一歩ずつですが、

「いつか治すことができたなら」と、

toshiさんは願っています。

「良星島の最愛」

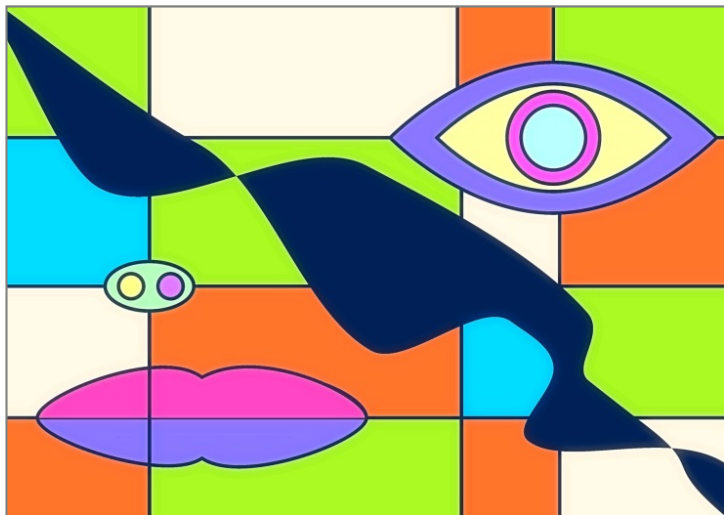




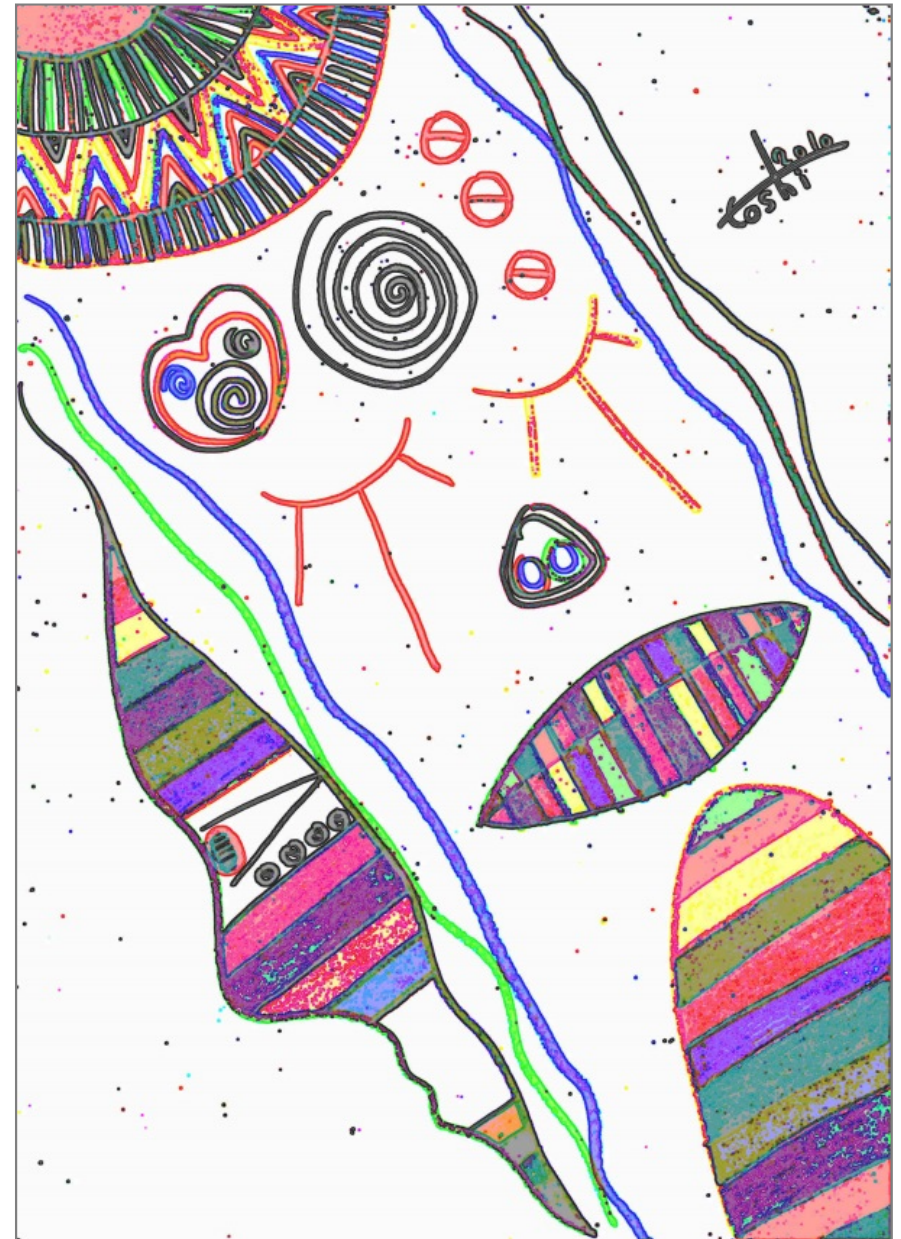
toshiさんは最近、ペンを持って方眼紙に向かっています。  
次はどんな作品を作ろうとしているのでしょうか。  
それは、まだ、ひろ子さんにも秘密のようです。

今は、心の充電期間…。  
作品がまた展示ができるようになったら、  
今度は、大きな一步を踏み出しているかもしれません。  
ひろ子さんの誘いに乗って、  
「たまには外に出てみようか」と。  
そんなtoshiさんの姿を今は思い描いてみましょう。

「はいからミルキー」



「ああ、山の流れのように」





## 「精神障がい」について

統合失調症や気分障がい(そううつ病)などの精神疾患では、幻覚や妄想、不安やイライラ感、ゆううつ感、不眠などが認められます。周囲から「怠けている」「意志が弱い」などと誤解を受けやすく、これらの症状は、薬の服用や環境が安定することで軽快します。

### ★こんな配慮がうれしい！

- ◇無理な励ましは過剰なストレスとなることもあるので  
本人のペースに合わせたはたらきかけが必要
- ◇再発につながる注意サインを知っておき再発を予防する
- ◇本人の気持ちを大切にする

## あとがき

精緻で色使いも独特なtoshiさんの絵。パソコンで描いた絵もさることながら、特に色鉛筆や鉛筆のモノクロームで仕上げた作品に引かれました。顔を描いたものが多く、そのまなざしには、見る者の心の底を透かすような視線があります。次から次へと作品を描き上げ、

両親もびっくりしたといいます。「いつかは治したい」というtoshiさん。その願いがかなう日を待ちたいと思います。(か)